



SNSで久能商店の最新情報をチェック!



- ①お昼や夕方ごろはできたての惣菜を求めてしばしば行列に。
- ②イラスト入りのメニュー表のほか、看板や商品ポップなどは久子さんの手作り。
- ③看板商品の自家製コクウま手羽唐。食べやすい大きさ、味付けにしてあり、おかずやおつまみとしても人気を集めている。
- ④おやつとして大人気のいもつげん坊。県内産のさつまいも「紅はるか」の甘みを活かした味で、リピーターも多い。
- ⑤旬の野菜を使った惣菜も販売している。写真はレンコンの磯辺揚げ。

募集

このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を募集しています。自薦・他薦は問いません。詳しくは、お問い合わせください。

申込先：企画財政課 企画係
☎0965-52-5850

メール：
kouhou@hikawa.kumamoto.jp

子どもでも食べやすいように工夫

2人も小さな子どもを育てる親ということもあり、「子どもやアレルギーをお持ちの人も安心して食べられるように。」揚げ物の衣は卵を使わず、タレも余分な添加物も控え、材料選びや味付けも工夫している。材料は、町内で採れた旬の野菜を仕入れることもある。

「新鮮でおいしい野菜や果物がたくさんあり、地域住民間の距離感が近いことが氷川町の良いところ。子育て環境にも最適です。小さな惣菜屋ですが、これからも頑張っていきたいです。」と意気込む。

地域に愛されるお店を目指す2人は、今日もお客さんのためにお店に立つ。

住人十彩

2020 June

#2~久能商店 北村 修さん・久子さん~



このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を紹介します。
今回は新村北地区で惣菜屋「久能商店」を営んでいる北村修さん・久子さん(今)です。



全国の物産展を回る日々から独立へ

北村修さん(37)・久子さん(39)は、長男の脩くん・長女の宇萌ちゃんの4人家族。

熊本市出身の修さんは高校卒業後、全国各地の物産展を回って手羽唐を販売する会社に勤め、氷川町出身の久子さんもまた、全国の物産展で食用油を販売する仕事をしてきた。2人とも仕事の都合で、年間のほとんどを県外で過ごしていた。

そんな中、鳥取県で開催された九州物産展で出会い、意気投合。結婚後の平成28年に夫婦で独立し、惣菜屋「久能商店」を立ち上げた。

「店名は妻と長男の名前を合わせて付けました。看板の梅の花は長女の名前を意味しているんですよ。」と修さんは笑って話す。

その後、氷川まつりやひかわボタニカルマーケットなどの町のイベントのほか、道の駅竜北や各地で開催されるマルシェなどに積極的に出店して徐々に認知度を広め、令和元年7月からは、(株)フルサト電材販売の敷地内で、念願の調理場付きの直売所をオープンした。

お店には連日、町内外からたくさんのお客さんが、そのできたての美味しい惣菜を求めてやってくる。